

茨城うまいもどころ味クラブが、横浜市中心卸売市場でいばらき農産物販売推進懇談会を開催

9 月 20 日（水）、横浜丸中青果株式会社会議室において、茨城うまいもどころ味クラブ（会長：ベジフルフード㈱専務取締役 吉田由幸）が、横浜市中心卸売市場関連仲卸会社 6 社、卸売会社 2 社参集の下、いばらき農産物販売推進懇談会を開催しました。

始めに、吉田会長から「8 月の連続した曇雨天以降、天候の影響により、青果物の入荷状況が予測しづらい中、冬に向けて秋冬野菜の商戦が始まる。秋冬野菜を始めとする青果物全般の主要産地である茨城県は、横浜市場においても重要な産地である。本日は、皆様が日頃取扱いされている茨城県産青果物の評価や意見を頂き、市場からの提言により産地も良い方向に変化できるきっかけとしたい。」と挨拶がありました。



いばらき農産物販売推進懇談会の様子



横浜市関連仲卸会社の出席者

懇談会では、まず、出席頂いた仲卸 6 社から、現在取り扱っている本県産青果物に対する評価や品質改善要望等について意見を頂きました。出席者からは、「神奈川エリアでは茨城県産青果物流通量が多い割に消費者に認識されていない。販促活動等を積極的に行うと効果的だと思う。」「年間で回転数の多い葉物等で、夏と冬では同じ階級でも品質の差が大きい。一年を通じ、一貫した選別基準を保って欲しい。」「降雨後の果菜類に果皮の傷みが目立つ。取り遅れ等のないよう適期収穫をお願いしたい。」等といった意見が出されました。

また、本県に対する新規品目等の提案について意見を募ったところ、「インゲンやスナップえんどう等は、軽量で、高齢の生産者でも栽培しやすいと思う。近年需要が伸びているので、栽培して欲しい。」「ここ 10 年でパプリカの需要が伸びており、量販店のみならず、飲食店での食材需要も強い。赤系統の色を中心に入荷を望む。」といった貴重な意見が多く出されました。

横浜市中心卸売市場で懇談会が開催されるのは平成 22 年以來 7 年ぶりであり、横浜市場において懇談会を開催することで、改めて茨城県産青果物に対する期待や真摯な意見を頂くことができる、有意義な機会を得ることができました。